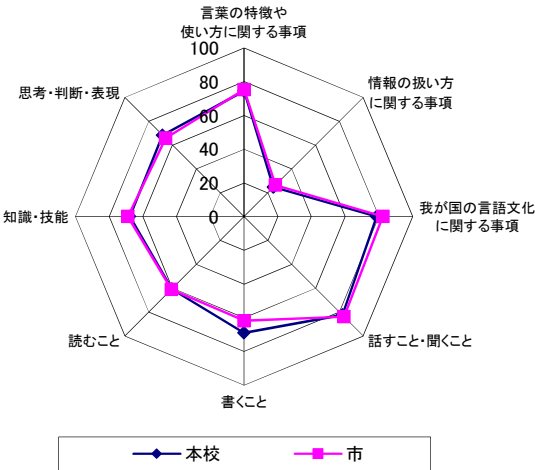


宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.5	75.3	77.1
	情報の扱い方にに関する事項	24.8	26.5	27.8
	我が国の言語文化にに関する事項	78.6	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	82.6	83.9	84.2
	書くこと	68.9	61.7	64.5
	読むこと	60.7	60.9	61.0
観点別	知識・技能	67.7	68.8	70.3
	思考・判断・表現	68.4	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

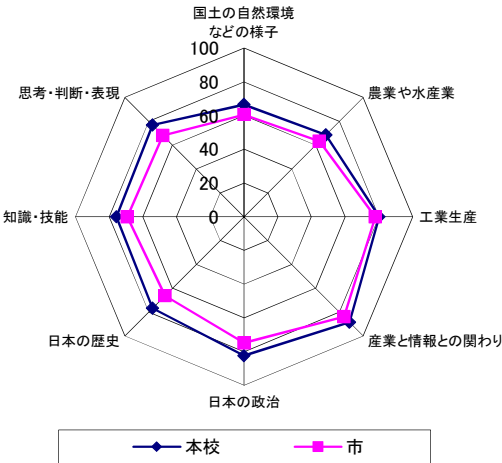
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率は、74.5%で市の平均正答率より0.8ポイント下回る。 ○漢字を読む設問に関しては、正答率97.4%で市の平均を0.6ポイント上回った。 ●漢字を書く設問に関しては、正答率56.1%で市の平均を4.8ポイント下回った。 ●敬語について理解し、正しく使う設問に関しては、正答率47.0%で、市の平均を5ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 漢字の読み書きの力をさらに伸ばすため、漢字ドリルの利用とともに生活の中で既習漢字を使用するよう意識付けを図っていく。 語彙を増やすために、読書や新聞を読む時間を意識的に取り入れていく。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、24.8%で市の平均正答率より1.7ポイント下回る。 ○段落の役割について理解し、2段階構成で文章を簡単に書いている問題では、正答率76.9%で市の平均を10ポイント上回った。 ○情報と情報の関係についての理解度は、市の平均とほぼ同じであった。	複数の情報の関係を理解し、目的に応じた文章を書く力を伸ばすために、文章を読んで要約したり、キーワードを抜き出したりと、的確に話題を捉えて表現する活動を取り入れていく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、78.6%で市の平均正答率より3.8ポイント下回る。 ●語句の由来に対する関心度は、市の平均を3.8ポイント下回った。	和語・漢語・外来語への理解を深め、言語文化への興味関心が高まるよう古文や漢文等様々な文章に触れる機会をもたせるとともに、一人一台端末を利用し、楽しみながら語彙を増やしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、82.6%で市の平均正答率より1.3ポイント下回る。 ○意図に応じて話の内容を捉える設問に関しては、正答率90.6%で市の平均を6.8ポイント上回った。 ●意図に応じて質問を工夫する設問に関しては、正答率84.6%で市の平均を4.4ポイント下回った。 ●自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える設問に関しては、正答率72.6%で市の平均を6.3ポイント下回った。	テーマを明確にしてインタビューする活動を設定し、話の内容を捉えたり、意図に応じて質問を工夫したりできるよう支援していく。また、国語科だけでなく、全教科を通して、話し合い活動を意識して取り入れ、内容を聞き取ったり、相手の立場を考えたりできる能力を高めていく。
書くこと	平均正答率は、68.9%で市の平均正答率よりも7.2ポイント上回る。 ○目的や意図に応じて書き表し方を工夫する設問では、正答率83.8%で市の平均を11.3ポイント上回った。 ○指定された長さで文章を書く設問では、正答率76.9%で市の平均を9.4ポイント上回った。	テーマに対して自分の意見を持ち、条件に合わせた文章を書いて伝えることができるよう、参考文章の例示や言葉の表し方などを児童に示して作文指導を行う。また、学校の様々な場面で、友達と話し合い、意見を交換する場面を設定していくことで自分の考えを構築、文章化する機会を設け、書く力を育成する。
読むこと	平均正答率は、60.7%で市の平均正答率より0.2ポイント下回る。 ○物語文において、登場人物の心情を描写を基に考える設問に関しては、正答率65.8%で市の平均を2.3ポイント上回った。 ○説明文において、文章の内容を捉える設問に関しては、正答率64.1%で市の平均を4.9ポイント上回った。 ●物語文の文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる設問に関しては、正答率77.8%で市の平均を3ポイント下回った。	物語文における登場人物の心情を捉えるために、根拠となる文中の言葉に注目し、自分の考えがもてるようにする。さらに友達と考えを交流し、読みを深められるようにする。

宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	66.4	60.5	65.8
	農業や水産業	68.6	63.3	66.0
	工業生産	80.2	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	88.6	83.8	76.6
	日本の政治	82.4	74.9	74.1
	日本の歴史	76.8	66.3	68.3
観点別	知識・技能	75.7	69.3	71.4
	思考・判断・表現	76.8	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

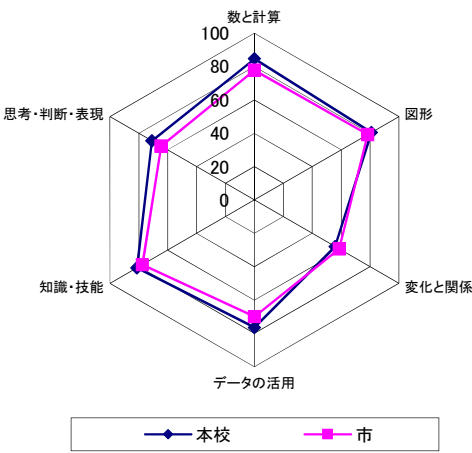
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、66.4%で市の平均正答率より5.9ポイント上回る。 ○季節風についての理解をもとに、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取る設問では、市の平均を6ポイント上回った。 ●日本の周辺の海洋名についての設問では、正答率が76.3%で、市の平均を上回っているものの、やや低い結果となった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 授業等で出てきた国や海洋についてその都度調べたり、ニュースなどで話題の国々を取り上げたりして、その位置を理解させるとともに、日本との関係にも目を向けさせていく。また、都道府県や日本の主な地形についてデジタル教科書や一人一台端末などを活用して確認させ、学習内容の定着を図る。
農業や水産業	平均正答率は、68.6%で市の平均正答率より5.3ポイント上回る。 ○米の品質を高める工夫についての設問では、正答率が92.4%で、市の平均を6ポイント上回った。 ●日本の主な食料の自給率についての設問では、正答率が34.7%で、市の平均を1.6ポイント下回った。	日本の主な食料の自給率について関心を高めるとともに、どんなことを表した資料なのか、資料からどんなことが分かるのか、分かったことからどんなことが考えられるのか、などを意識しながら資料を読み取るよう指導する。
工業生産	平均正答率は、80.2%で市の平均正答率より2.3ポイント上回る。 ○自動車の部品を再利用する目的についての設問では、正答率が92.4%で市の平均を5.5ポイント上回った。 ○日本の主な輸出物・輸入物についての設問では、正答率が56.8%で市の平均を0.3ポイント上回った。	日本の貿易の特徴について、市平均を上回っているが、56%とやや低いので、地図帳や資料などを活用し、確認させる。また、現在の様子だけでなく過去からの移り変わりを捉え、今後の工業生産にも目を向けることができるよう指導する。
産業と情報との関わり	平均正答率は88.6%で市の平均正答率より2.8ポイント上回る。 ○情報の発信と受信の注意点についての設問では、正答率が96.6%で、市の平均を3.7ポイント上回った。	デジタル化の進展が生活に大きな影響を及ぼしていることや、有効な情報を正しく活用することが大切であることを、授業や生活の中の様々な具体的な事例から考えさせ、理解を深めさせるように努める。
日本の政治	平均正答率は、82.4%で市の平均正答率より7.5ポイント上回る。 ○日本国憲法の基本的人権の尊重についての設問では、正答率が89.8%で、市の平均を8.5ポイント上回った。	自分たちの生活と政治とのつながりを考えさせながら、主権者としての自覚を持てるような学習を進めていく。
日本の歴史	平均正答率は、76.8%で市の平均と比べて10.5ポイント上回る。 ○各時代ごとの正答率は、58.5%から89.0%とばらつきがみられるが、全ての設問において市の平均を上回った。	年表や図表、地図、映像、文章などの資料を活用しながら、歴史的事象を正確に捉えさせていく。また、文化的な面で、現在の生活とのつながりがあることを意識させながら、理解を深めさせるように努める。自分の考えを根拠を示しながら文章で表現する活動を通して、知識の定着を図っていく。

宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	84.6	77.7	78.6
	図形	80.9	78.4	74.4
	変化と関係	55.9	58.7	53.0
	データの活用	76.4	69.9	57.2
観点別	知識・技能	81.3	77.5	74.0
	思考・判断・表現	70.9	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

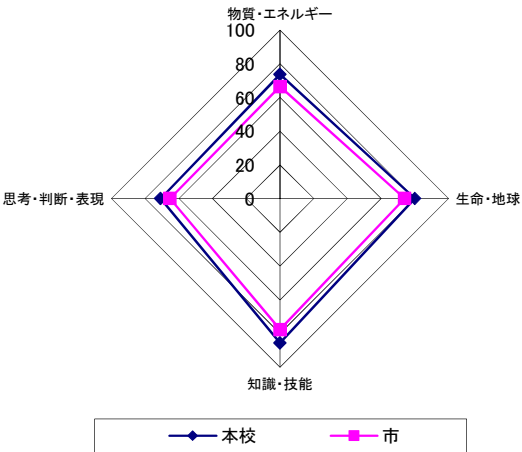
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、84.6%であり、市の平均正答率より6.9ポイント上回っている。 ○文字を使って2つの数量の関係を1つの式に表す問題では、正答率は82.2%で、市の平均より11ポイントと大きく上回った。 ●比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶ問題では、正答率は70.3%で、市の平均より8.3ポイント上回っているが、正答率は若干低めであった。	文章問題の意図するところを正しく読み取り、式の意味や計算の仕方を理解することができるよう、宿題や朝の学習等で継続して学習に取り組ませていく。また、計算の仕方について、既習の計算などをもとに考えることを大切にした授業を展開していく。
図形	平均正答率は、80.9%であり、市の平均正答率より2.5ポイント上回っている。 ○底面積と高さから角柱の体積を求める問題では、正答率が90.7%で、市の平均より9.4ポイントと大きく上回った。 ●合同な三角形を作図する問題では、正答率は85.6%で、市の平均より4.3ポイント下回っている。	「ひし形の面積を求める式」、「三角形の外角」、「合同な三角形の作図」などの図形に関する基礎知識の定着を図り、それを用いて説明をすることができるよう授業を展開していく。今後も、図形の見方が正確にできるよう指導の充実を図る。
変化と関係	平均正答率は、55.9%で市の平均正答率より2.8ポイント下回っている。 ○表から面積と人数の割合を求める問題では、正答率が56.8%で、市の平均より1.9ポイント上回った。 ●割引後の値段を求める問題では、正答率は61.0%で、市の平均より5.9ポイント下回っている。	授業で日常生活での場面を取り上げ、図等から必要な情報としての面積や人数に着目し、比較して捉える学習活動を多く取り入れていく。自分で考え、根拠をもって説明したり考えを伝え合ったりする活動の充実を図る。
データの活用	平均正答率は、76.4%で市の平均正答率より6.5ポイント上回っている。 ○度数分布表を完成させる問題では、正答率が86.4%で、市の平均より9.1ポイント上回った。 ●ヒストグラムを読み取って説明する問題については、51.7%で市の平均より7.1ポイント上回っているが、誤答が多い。	児童の生活に関わる事柄を題材にして、統計的に問題解決をする活動を取り入れた授業を進めていくことで、分析結果を活用する力をさらに高めていく。データの読み取りやデータの特徴の理解をした上で、データを根拠として自分の考えを書くことを指導する。また、対話を通して自分の考えを客観的に考察し、別の観点や立場から振り返り、検討する活動を行うことで、自分の問題解決の方法や結果が妥当かどうかについて、筋道を立てて考え、表現する力を高めるようにする。

宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.7	66.5	66.3
	生命・地球	79.9	74.0	72.6
観点別	知識・技能	85.6	77.6	78.2
	思考・判断・表現	70.8	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均正答率より7.2ポイント上回っている。しかし、前年度の本校正答率よりも2.9ポイント下回っている。 ○メスシリンダーの目盛りの正しい読み方、物が燃える前後の酸素と二酸化炭素の割合の変化、水溶液を用いた実験の正答率は9割を超えている。 ●電磁石をもとに、おもちゃの車が走るように改善する方法を記述する問題では、市の平均を0.6ポイント上回っているものの、他の問題に比べ差が小さい。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後も、正確な実験結果を得るために必要な器具の正しい使い方の理解や実験結果を一人一人がしっかりとまとめ振り返る活動を重視し、知識・技能の確実な定着を図る。ふりこを活用したメトロノーム等、授業で学んだことを実際の生活に生かしている事象について発展的に考える機会を設けるなど、日常生活と理科の学びを結びつける指導の充実を図る。
生命・地球	平均正答率は、79.9%で市の平均正答率より5.9ポイント上回っている。 ○動物のからだのつくりとはたらきにおいて消化に関する問題の正答率が高く、78.8%である。これは市の平均より18ポイント上回っている。 ●植物のつくりとはたらきの茎の断面の様子を答える問題の正答率は、59.3%で市の平均より3.5ポイント下回っている。	今後も、実際に実験をすること、結果から分かったこと等を文章でまとめる活動を充実させることを通して、一人一人の学びの確実な定着を図る。天体に関する学習は、体験的に学んだり、実際に空をみる活動を重視したり、映像資料を活用したりして具体的にイメージしながら学べるようにする。

宇都宮市立泉が丘小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
一人一台端末等のICTを活用した学習活動や外国語教育の充実を図り、表現する力を育成する。	各教科の学習や総合的な学習の時間等の学習活動の中で、児童の実態に合わせて課題を設定し、一人一台端末内のアプリを活用したワークシートに取り組ませることで、児童の思考力や表現力を育成する。 外国語教育の授業では、児童が主体的にコミュニケーションをとれるように学習活動を工夫し、外国語を学ぶことが楽しいと思えるように学習意欲の向上をめざす。	3年生から6年生において、「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる。」と回答した児童は、市の肯定割合を上回る学年もあったが、下回る学年もあった。 「外国語活動・外国語の授業が好きである。」と回答した児童は、市の肯定割合を上回る学年もあったが、下回る学年もあった。高学年にいくにつれ肯定割合が低くなっている傾向がある。外国語の学習内容に難しさを感じたり、英語を使ってやりとりをすることへの抵抗感などが生まれていることが伺える。
「自分の考えを書く活動」の習慣化や、「説明」「話し合い」活動を充実させる。	各教科の学習では、自分の考えを自分なりの言葉で書く活動を取り入れ、今日の授業の振り返りをする機会をもたせる。また、学習活動の中で、ペアやグループで話し合ったり、自分の思いを伝えたりする活動を多く取り入れることで、相手に自分の考えを伝えることに慣れさせていく。	「授業で習ったことを分かりやすくノートにまとめている。」、「話し合いに自分から進んで参加している。」と回答した児童は、ほとんどの学年で8割を超え、市の肯定割合を上回った。教師側が児童に身に付けさせたい力をしっかり意識し、必要な学習活動を積極的に取り入れている成果が表れている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・ほとんどの教科で「知識・技能」、「思考・判断・表現」で正答率が市の平均正答率や参考値を上回っており、基礎・基本の習得に取り組んできた成果が表れている。しかし、4教科の中では国語に苦手意識や難しさを感じる児童が多いのか、「書くこと」以外の領域では全て市の平均正答率や参考値を下回った。特に「我が国の言語文化に関する事項」は市の平均正答率より3.8ポイント下回り、言語に対しての関心や理解が低いことが伺える。次年度は、児童が興味・関心をもって取り組める課題の設定や学習内容の明確化を図り、単元や学期末ごとに復習する機会や学年末にまとめの学習をする機会を設定し、基礎・基本を確実に習得させたい。

・「勉強が好きですか。」の項目の肯定割合は、ほとんどの学年が市の肯定割合を上回ったが、「学習に進んで取り組んでいますか。」の項目では、ほとんどの学年が市の肯定割合を下回った。次年度は、児童の学ぶ意欲を高め、目標を達成できた充実感や学ぶことの楽しさを味わえるような学習活動や興味関心をもって取り組める学習課題の設定等、指導の充実を図り、学びに向かう力を育てていきたい。